

2023年3月19日 四旬節第四主日礼拝説教
「術なき者への救い」(ヨハネ9章1～12節)

○ヨハネ9章1～12節について

「イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。」(1節)

救い主イエスは、生まれながら〈目が見えない病〉をもつひとりの人を、ご自身の眼と心にとめられた。キリストは見える術なき人の目に触れ、救いのみことばを語り、それに従う彼の体と心にある眼を開いて、神を信じる者とされた。

今日のみことば：ヨハネ9章3節

「^{ほんにん}本人が^{つみ}罪を犯したからでも、^{おか}両親が^{りょうしん}罪を犯したからでもない。^{かみ}神の^{わざ}業がこの^{ひと}人に^{あらわ}現れるためである。」

目の見えない人について、弟子たちは、「だれが罪を犯したから」(2節)彼は、こうなったのかと尋ねてきた。そこで神の子イエスは「だれのせいでもない。目の見えぬことをとおして神が働かれ、彼を救うためなのだ」と教えられた。

問：みわざが現れるため、あえて神が、あなたに許されているものとは？

○なぜキリストは十字架の上で死なれたのか

◎聖書朗読：ヨハネ19章1～7節

「ユダヤ人たちは答えた。『わたしたちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。』」(7節)

ピラトは「この男に罪を見いだせない。」(6節)と言ったが、ユダヤ人たちは「死に値する罪を犯した」と答えた。神から罰を受けるべき罪を、キリストが犯されることはなかった。

「御子は罪を除くために現れました。御子には罪がありません。」(ヨハネ3:5)

問：キリストが十字架につけられたのは、だれが罪を犯したから？

ご自身が罪を犯されたのではなく、わたしたちが罪を犯したからであり、さらに十字架をとおして、神のみわざが現れるため。それは、「キリストが、わたしのために死なれた」と信じるあなたが罪赦され、神の罰と裁きから救われること。